

豊潤の里 だより

再開発に向けた要望書を提出

～ 旧安芸津クリーンセンター跡地 ～

木谷自治協議会と赤崎地区自治会は7月24日午前、高垣広徳東広島市長に「旧安芸津クリーンセンター跡地の再開発に関する要望書」を提出しました。赤崎地区が「し尿・埋め立てゴミ」を受け入れてきた歴史は約半世紀。今後この跡地を東広島市民のために有効活用してもらいたいという思いを届けました。

令和8(2026)年7月24日

東広島市長様

住 所 安芸津町木谷 4127-2
団体名 木谷自治協議会 赤崎地区自治会
安芸津町内自治協議会等連絡会議
会 長 山住 光治 (木谷自治協議会)
会 長 竹前 晃一 (赤崎地区自治会)
連絡先 0846-45-0105(木谷地域センター)

旧安芸津クリーンセンター跡地の再開発に関する要望書

1. 趣 旨

- ・広島中央環境衛生組合は旧安芸津クリーンセンターの解体・整地計画の作成・実施
- ・東広島市はその跡地利用を「総合計画 地域別行動計画」に位置づけ、再開発に向けた論議の推進

2. 理 由

「もう赤崎へ、し尿やゴミが入って来んようになったんじゃのう。」

安芸津クリーンセンターは、安芸津町のし尿を集め処理する施設として、第1期平成元年に供用を開始、平成 10 年に施設を増設、令和 3(2021)年の閉鎖まで稼働してきた。その年数は実に 33 年間にも及ぶ。

しかしながら木谷赤崎地区のし尿処理施設の歴史はさらに古い。昭和 45(1970)年に安芸津町がし尿処理施設を建設したのが始まりである。設備も現在使われているものとは程遠く、周囲に異臭が漂っていた。町時代と合わせると、実に 51 年間もの長きにわたりこの赤崎地区にし尿処理施設があったことになる。

一方、竹原安芸津最終処分場も平成7(1995)年から令和 3(2021)年の閉鎖まで 26 年間稼働してきた。今後は、自然災害時の災害ゴミ処理場として活用する予定で、施設設備はそのまま残されている。そう考えると、赤崎地区として「し尿・埋め立てゴミ」を受け入れてきた歴史は半世紀以上。とてつもなく長い。

冒頭の古老の言葉が重くのしかかる。二つのいわゆる「施設」を長年受け入れてきた人々の思いはいかばかりか。その古老が思いをまとめた。

赤崎にし尿処理場が設置されて以来 50 数年、ようやくこの設備が廃止されます。

思い返せば、最初の頃はひどかったです。常に悪臭に悩まされたものでした。風向きによっては悪臭が家の中まで漂い、食事も喉を通らないし、農作業を行っているときも、早くその場から離れたい気持ちになりました。

その都度安芸津町役場に電話を入れると、担当者が来てくれました。同じようなことが幾度となく繰り返されてきました。今思えば懐かしくもありますが、悪臭の中での生活は嫌でたまりませんでした。

約 30 年前設備増設工事を実施した後は、あの嫌な臭いは徐々に改善され、近年ではほとんど臭気を感じなくなりました。技術革新はもちろん、行政の取り組み、何といても従業員の日々の努力を忘れてはならないと思います。

しかしながら、後に建設された最終処分場と合わせ「迷惑施設」に 50 年余り耐えてきた我々となれば、今後この跡地を市民のために有効活用してもらいたいと、強く訴えたいのであります。

この文章を読まれ、行政の皆さんは何を感じられたか。市民が生活する上でどうしても必要な施設であるし尿処理施設やゴミ処理施設。町内・市内のどこかの地域がその負担を強いられることになる。その地が赤崎地区だった。

赤崎地区の住民は、忍耐強さの中にも感謝の気持ちをもち、次の世代への思いを忘れず、寛容でしなやかな地域性をもってこの「迷惑施設」を受け入れてきた。そのことを私たちは忘れてはならないし、行政も然りである。

安芸津町・東広島市のし尿処理施設の歴史について、当該地域に住む人以外、普段の生活の中で思い起こす人はほぼいないであろう。市町の片隅で住民全体の生活を支え続けてきた「必要不可欠な施設」として、その責務を果たした安芸津クリーンセンター。その役割は終えたとしても、半世紀超にも及ぶ赤崎地区住民の寛容でしなやかな地域性を、私たちは忘れてはならない。閉鎖後 5 年が経過しており、当センター跡地の再開発を推し進めることを通して、赤崎地区の魅力をより多くの人々に知ってもらい、豊かな自然環境も含め「東広島市の財産」として次世代につなげていくことができたらずばらしい。

そこで私たち木谷自治協議会・赤崎地区自治会は東広島市へ要望する。旧安芸津クリーンセンターを広島中央環境衛生組合と連携し、早期に解体・整地計画を作成実施し、広く市民が生き生きと活用できる場、憩いの場として再開発することを。ご存じの通り、市内で唯一海に面している安芸津町。当センターからは多島美が臨める風光明媚な場所としてだけでなく、近海は遠浅で海洋生物も豊かである。木谷自治協議会は毎年海辺の生物観察会を開催したり、清掃活動を実施したりして取り組んでいる。近年は釣り人だけでなくサイクリストも多く来訪したり、市内各地からウォーキングに来られたりする姿もよく見かける。

一方で赤崎海岸線道路改良事業も少しずつだが拡幅整備が着実に進んでおり、いずれ国道 185 号へ接続する。「第 5 次東広島市総合計画 前期地域別行動計画」中間報告の中でも示されている「優れた景観を活かした観光の創出」、または施策方向性 キーワードの中に見られる「瀬戸内の温暖な気候や海、優れた景観を活かした、新たな観光、レクリエーション機能の検討」。どれをとっても、旧安芸津クリーンセンター跡地活用と関連深い内容と考える。安芸津地域の将来像「瀬戸内海に臨む温暖な気候と豊かな自然環境を活かした共に支え合う共生のまち」とも合致するものでもある。

旧安芸津クリーンセンター跡地を「東広島市総合計画 地域別行動計画」の中に位置づけ、再開発に向けての具体的な論議を進めることを要望する。

体育振興部会＋木谷地域まちづくり実行委員会

みんなが主役～地域運動会（5/23）

昨年度に続き午前中のみの開催となった運動会。児童たちは学校の運動会では赤組と白組に分かれて一生懸命得点を競い、そのあとの地域運動会では地域の人たちとともに地区対抗種目に参加しました。運動会を通して人々の交流が図られ、小学校をより身近に感じることができたのではないのでしょうか。



最初の種目は「玉入れ」。大人から子どもまで全員が参加して、竹竿の先の籠をめがけて玉を投げました。籠は高い位置にありましたが、思った以上にたくさんの玉が入っており、それを数えるたびに歓声があがりました。



「綱引き」は持久戦。最初は劣勢でも力を合わせ、心をひとつにして綱を引き続け、逆転勝利したことも。



「じゃんけん列車」がつながって、最後に大きな輪ができました。その輪を活かして楽しく「安芸津音頭」を踊りました。

東広島市民スポーツ大会は中止となりました。

6月7日（日）に開催予定の第38回東広島市民スポーツ大会・陸上の部は、降雨のため中止となりました。

地域センター
主催講座

“夏みかんピール” づくり (5/22)



講師の光保智恵子さんに教わりながら、7名の参加者が夏みかんの皮を使ったピールづくりに挑戦。さわやかな柑橘の香りに包まれながら調理を続けること約1時間。甘さ・酸味・ほろ苦さのバ



ランスが程よくとれ、紅茶や緑茶にぴったりのピールができました。果肉もむだにせず、加工してジャムに仕上げました。

環境衛生部会

部会活動紹介



5/24 ホタルを見ながら「夜のお散歩」

42名が参加。吉田直代さんから、ホタルの一生などの話を聞いた後、飛び交うホタルを見ながら川沿いを歩きました。自然からの贈り物に魅了されたひと時でした。

<安芸津保全会下之谷集落・木谷地区公衆衛生推進委員会>



6/14 「きれいなまちづくりキャンペーン」

地域のみなさん90名余りが、道端や水路に落ちているゴミやビン・缶を拾いながら、木谷小学校に集合しました。きれいな木谷づくりに感謝。

<木谷地区公衆衛生推進委員会・東広島市>

教育文化部会



6/29 ホボロ島現地学習を支援

木谷小学校5年生9名が、増田典生さん、長尾准司さん、山平忍さんの船に乗せてもらい、鼻繰島とホ



ボロ島に渡りました。現地では古本敦子さんなどから、二つの島の地質の違いや、海に生息する多様な生物について説明を受けました。

木谷の人口（住民基本台帳）	世帯数	人口	男	女
令和8年(2026)6月末現在	654	1337	649	688
令和7年(2025)6月末との比較	-8	-33	-20	-13